

審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会議の名称	第3回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和5年12月11日(月) 午後7時00分～午後8時30分		
開催場所	茅野市役所 8階大ホール		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章委員、両角薫委員、戸川榮司委員、岩下ふみ子委員、竹内ひかり委員、大作公明委員、小坂秀王委員、北澤いずみ委員、茅野市保育所保護者会連合会委員(代理)、小倉誠司委員、石井聖文委員(代理)、山口圭子委員、宮原渉委員(代理)、小口直喜委員、伊藤美奈委員、北澤孝郎委員、前島敦子委員</p> <p>【市側出席】 五味こども部長、平澤健康福祉部長、守屋地域福祉課長、小穴範子健康づくり推進課長、阿部こども課長、笹岡幼児教育課長、渡辺学校教育課長、小平こども係長、高橋こども係主査、矢崎こども係主事</p>		
欠席者(委員のみ)	渡辺修委員、原田正樹委員、味澤広明委員		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍聴者の数 0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
こども課長	司会進行		
副会長	1 開会		
こども部長	<p>2 教育長あいさつ 教育長公務により欠席のため、代理こども部長 皆さんこんばんは。こども部長の五味でございます。本日は年末のお忙しい中、またお疲れのところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。 本日の会議ですが、今年度協議をしております第3次どんぐりプラン中間見直しについて後期取組方針を作成いたしましたので、委員の皆様にお諮りをいたします。 第3次どんぐりプランですが、計画期間が2018年(平成30年)から2027年まででございますが、令和元年末頃から以降コロナ禍を経て、私達を取り巻く環境は大きく変化をいたしました。 委員の皆様にはそれぞれの立場からご意見を頂戴したいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>		
事務局	<p>3 交代委員紹介 教育委員会選出の勅使川原委員が9月30日をもって任期満了となり、退任したため、教育委員会から新たに伊藤美奈さんが本会議委員として選出された。任期は前任の残任期間である10月1日から翌年3月31日までとして委嘱している旨説明</p>		
委員	交代委員あいさつ		

<p>会長</p>	<p>4 会議事項 (1)審議会等の会議の公開の確認 前回同様①本日の会議を公開とすること、②会議録の公表を市ホームページでおこなうこと、③公開する議事録の発言委員の氏名を「委員」として記載して公表してよいかを委員へ確認</p>
<p>見直し専門委員長</p>	<p>承認</p> <p>(2)第3次茅野市こども・家庭応援計画中間見直しについて ・見直し委員会からこれまでの経過説明 6月22日、8月9日と2回にわたり中間見直し専門委員会開き、8月22日の第2回こども・家庭応援会議で詳細に報告させていただいた。その後は、9月8日第3回の見直し委員会開催、10月にこどもの声を聴くアンケートを実施。10月26日に第4回見直し委員会を開催し、特にこのアンケートの結果について、委員の興味をいただいた。また、そのときに、まとめ方等の意見がたくさん出た。</p> <p>第2回子どもの・家庭応援会議以降の話として、第3回見直し委員会では、既に各団体から、こんなことについて見直したらどうかというご意見を最初に聴取しており、その内容は各団体の立場で、自身の困り事や、欠けている内容、もっとやるべきこと、検討すべきことを挙げていただいた。これが、会が進むにつれ、意見が集約されて、重点項目として12項目が出来てきた。</p> <p>また、第3回見直し委員会では、検討した意見をどのようにまとめていくかについて議論した。こども家庭庁の設置を背景に、特に子どもの意見を聴くというところに重点が置かれているということもあり、大人だけで話し合っているだけでは駄目だ、やはり子どもたちに意見を聴くべきではないか、もっとしっかり聴こうということで、アンケートを実施した。これから説明があるが、先ほどの12項目について、例えば小学校高学年にわかるような言葉に少し直して、アンケートを実施。</p> <p>その後、第4回見直し委員会でアンケートの結果が出て、子どもたちの意見というのは、一言で言うと、「僕たちの意見を聴いてくれよ」という内容。どのカテゴリーにも僕たちの意見を聴いてほしい、大人たちだけで決めないで、ということが含まれている。そういったところに、皆さんも、私自身も愕然とした。子どもたちの意見を今までしっかり聴いていなかったという感じがした。</p> <p>見直し委員会会議自体は、1回目から4回目まで。普通であれば、意見があまり出ないところだが、皆さんから本当にいい意見をたくさん出していただき、そのおかげで非常に活気のある会議ができた。</p> <p>今日はさらに、アンケートに直接書いてくれた意見をカテゴリーごとにまとめたものを、皆さんもぜひ着目していただいて。そして、子どもたちの意見を反映していくために、どうしていくべきかを考えていかなければいけないという感想を持っている。雑駁ではあるが、以上でこれまでの見直し委員会の会議の経過についてお話をさせていただいた。</p>
<p>こども課長</p>	<p>・資料1により後期取組方針について説明 なお子育て団体からいただいたご意見で、後期の見直しに入れられなかった重点項目についても、第4次計画の策定時に検討する内容としていきたい。 その他、11/24の行政アドバイザーから①子どもの意見を聴くことについて、子どもの意見をどう政策に反映していくかが難しい②こども家庭庁に文科</p>

	<p>省が入らなかったことから、こども基本法についても児童福祉にウエイトが行っていて、青少年の健全育成が少ないように思う③どんぐりプランは18歳までということが示されており、地域福祉課ではビナスプランで主に成人への福祉をうたっているため、18歳から20歳の谷間の問題が出てきている④どんぐりプランについては支援計画ではなく応援計画としている点、重点取組項目の体験機会の創出、子どもの主体的な活動の応援の部分で、今後地域での育ち、ひと育ちにも目を向けていくことが必要ではないか といったご意見をいただきました。</p> <p>最後になりますが、委員長をはじめ、8名の見直し委員会の委員の皆様には、本会議の他に6月22日を初回として計4回の見直し専門委員会にて、夜遅くまで議論をしていただきましたことにお礼を申し上げ、説明を終わります。ありがとうございました。</p> <p>・子どもの声を聴くアンケートについて当日資料、資料1資料編2ページにより説明</p> <p>今回の子どもたちの意見について、ただ聴いたで終わらせることなく、どのように施策に反映させていくかを後期の取組として考えていきたい。また、素案内の子ども声を聴くにあるように、子どもの意見を積極的に聴き、施策に反映させ、子どもたちへフィードバックしていくことを大切にしていきたい。</p>
会長	<p>それではこれについて、皆さん気づくところ、もう少し確認したいところなどあるかと思う。それではマイク回します。</p>
委員	<p>この内容については、議論した結果なので、よくまとまっていると思う。</p> <p>今日の子どもの声を聴くアンケート、これは衝撃。自由意見の中に、大人にとっては耳の痛い意見がいっぱいある。実際に我々大人が、ただ子どもだ、子どもたちと言って、押しえつけるのではなくて、どうやって子どもにとって住みやすい街にするかというのは非常に大事。</p> <p>もう一つ福祉21の立場でいうと、0から100歳と言いながらも、高齢者や障害者に重点がいくってしまう施策が多い。子どもの視点がほとんどこちらに丸投げのような形に今なっているので、こういう形を福祉21の方にもどうやって入れ込んでいくか。子どもの観点からのものが、あまりないのでそれをぜひ入れていきたい。</p> <p>また、私の個人的な感覚だが、先日テレビで、北欧の国では、若者の投票率が非常に高い。日本は非常に低い。これはなぜかという、北欧では若者がいろいろな会議に参加して、それを実際の議員が真剣に取り組んで政策に取り入れている。要するに自分たちの意見が通るとのこと。今の日本の投票率がなぜ低いかというと、いろいろな社会背景もあるが、やはり若者の意見が政治や行政に十分に通っていないからだと思う。茅野市はチノチノに代表されるように、若者の意見を取り入れてかなり先進的にやっているとは思いますが、これを見てまだ取り入れられるのではないかと感じた。これで子どもたちが住みよいかと感じたならば、一旦出た子どもたちも、また戻ってきてくれるのではないかと感じた。</p>
委員	<p>よくできていると思った。素案6ページ施策2中段で、妊娠期からの継続支援に繋げて「いきます」というのを「います」と修正してある部分。「いきます」は未来のことであるし、「います」は現在もやっているということだから、こういう修正はとてもいい。</p> <p>子どものアンケートについて、子どもたちもよく考えている。茅野市のことも</p>

委員	<p>よく考えているし、友達のことも考えている。茅野市の子どもたちもやるなと感じた。</p> <p>重点項目や、今回のアンケートも含めて、子どもの声を聴くというのは、やはり大事なことだと思った。</p> <p>体験機会の創出という項目に、職業体験が挙げられているが、やはり地域の活動に子どもがしっかり携われるような形での手助けが必要。最近は危ないからと、大人がやってしまうという行事も多々あるかと思うが、そういう部分でも子どもが関わられるような形で育ててあげられるといいと思った。</p> <p>また、子育て拠点の充実という項目について、拠点の役割の、地域との関わり、公民館の活用の部分。長野県は公民館の数がたくさんあるということなので、そういうものを拠点としてうまく利用する。子どもたちの居場所作りともうまく絡めながら、公民館が活用されるようになればいいと思う。ただ、それに関わる地域の人たちをどのようにバックアップできるか、支援する人をどのように集められるかというのが課題だと感じた。</p>
委員	<p>市民と行政の協働ということについて一つお願いをさせていただきたい。どんぐりプランの当初の計画では、パートナーシップのまちづくりということで考えられて、茅野市は先進的な取り組みとして市民と行政との協働ということを考えてやってくれていると承知している。</p> <p>先日、20年前にどんぐりプラン策定に関わられた方の話を聞く機会があった。その方が言われるには、当初は、そういうふうなことだったが、だんだん行政ベース、行政主導ベースになってきているのではないかと。今回の見直しについても、もうほとんど行政の施策としてあげられたように感じる。ですから、実際にやっていく中では、それぞれの施策について、市民と行政との協働をいかに作り上げていくかというスタンスを持ってやっていただきたい。</p>
会長	<p>今の協働に関して、私はパートナーシップのまちづくり推進委員会にも行っているが、パートナーシップというあり方について、二十数年たって、しっかりと考え直す、理解するために、協働とは何かという議論を今展開している。市民も二十年以上経つと、知らない人、忘れた人、あるいは誤解しているだろうと。まさにそのところが重要だと感じている。</p>
委員	<p>見直し専門委員会にも参加しており、項目の内容が活かされた文章だと感じた。</p> <p>今日のアンケート自由記載について、子どもたちが自由に書ける、発言できる、その思いを伝える場が少しできたのかと。本当にいろいろな思いがあると感じた。</p> <p>また私の立場から話すと、子ども1人1人の人権が尊重されること、保護者や地域との連携が盛り込まれていた。私達人権擁護委員も地域の一員として、これからも子どもたちに人権感覚をつけるために引き続き、啓発活動をしっかりしていかなければならないと、このアンケートや見直し委員会に参加している中で改めて感じた。</p>
委員	<p>連合会も見直し委員会に参加しており、内容は良いと思う。</p> <p>今回のアンケートについて、子どもからも、公園の整備のことについて意見があったが、私達保護者会でも、茅野市の公園は魅力があまりないという話が</p>

委員	<p>出ていた。このアンケートを見て、小中学生の意見を取り入れて公園整備ができたなら、素敵な公園ができるのではと感じた。</p> <p>私も今年PTAになって自治会の発表会などにいろいろ参加する中で、皆さんが共通して「地域の子どもは地域で育てる」と言われており、今回素案にもそれが掲げられていていいと思った。</p> <p>また、より身近な地区公民館の活用について、確か菟輪町の発表で、夏休みや冬休みに公民館に子どもを集めて寺子屋に活用したり、菟輪町の地区のカルタを公民館で体験をしたりしているという話を聞いた。茅野市にも縄文カルタがあるので、カルタ大会などで活用できればと思った。</p> <p>その他、来年から部活指導が地域移行されるが、それについて、つなぐ・つどうに掲げられている「PTAだけにとどまらず、広く地域住民の協力を得ながら、子どもたちとの交流を始め、学校運営にも関わることで学校を中核とした地域作り」と書いてある。学校を中核にした地域づくりには、PTAだけでなく一般の人たちも来やすい学校になってほしいと感じた。</p>
委員	<p>生活安全課は、子どもの虐待などの事案を取り扱うことが非常に多く、この「子ども・家庭への支援の充実」というのは非常に重要だと思う。実際に不登校や虐待というのはやはり、家庭内での夫婦不仲などの問題点が背景にあることが非常に多いことを実感している。アンケートの中で少数だが、子どもの前で夫婦げんかをしないで欲しいとか、そんな声が上がっているのを見ると、このような形で子どもたちの率直な意見をアンケートという形で集計するのは、非常にいい取り組みだと感じた。</p> <p>また、こういった子どもたちの声を拾い上げるだけでなく、これを元に、打ち返しというか、関係機関に情報共有をして、子どもたちの意見に沿った対応を検討していくことができればと思う。</p>
委員	<p>素案について、関連施策の目標とリンクさせた標記になっていて、どの目標に対しての項目なのかというのが明確になっている。表記の仕方がとてもわかりやすい、ということが一番の感想。</p> <p>児童相談所として大変ありがたいと思うのは、最初の新たな展開の部分に、子どもの声を聴くという項目があがっていること。児童相談所でも、来年4月から児童福祉法の中に子どもの声を聴くことが、義務化される予定。具体的には、一時保護や施設入所、在宅でも児童相談所に指導措置の形で関わるケースについて、子どもの声を聴かなければならない、ということになっている。これは解除するときも同様。</p> <p>そういう意味で児童相談所だけではなく、市町村の大人の皆がこういう形で子どもの声を聴くことを意識する、または施策の中で取り組んでいくということは、地域の中で子どもが大切にされているという感覚を養っていくためにも非常に大切な項目だと思う。</p> <p>アンケートについて、今回は小学校5年生以上対象ということだが、児童相談所でも小さなお子さんや、障害があってもうまく自分の声を言葉で表現できないお子さんたちの意見をどのような形で吸収していくのか、吸い上げていくのが課題になっている。そういったお子さんはリスクが高いので、茅野市さんでも、そのようなお子さんの意見をどのように聴取していくかを検討いただければ。</p> <p>また、1回聴いただけではなく、聴いた意見をどのように施策等に反映されて</p>

	<p>いくつかということ。その後、もらった意見について、こういう形で今実施しているかどうか、というような繰り返しの確認を子どもたちにしていく作業をしていくことで、子どもの意見を反映させながら、この施策を一緒に作り上げていくという感覚が持て、どんぐりプランの夢のある子どもにも繋がっていくのではと感じた。</p>
委員	<p>素案について、非常に丁寧に作られていて、また前回から、かなりブラッシュアップされており素晴らしい。</p> <p>アンケートについて、私は茅野市外に住んでいてわからないのだが、茅野市内の小学校は子どもたちがみんなタブレット等を配布されていて、インターネットで回答できるということなのですね。そうすると小学生は、まだこういうことができないのかな、と思うのだが、もうこんなに使いこなして、いろいろ意見が言えていてすごい。アンケートの内容に、すぐにアクションを起こさなければならぬ内容も入っていて、早く手を打ってあげないといけないと思った。集計も大変だっただろうが、私ども県としても、いろいろやっていかなければならないと、本当に考えさせられるアンケートだと思った。</p>
委員	<p>現在の高校生等の状況等を見る中で、子ども・家庭への支援の充実は非常に必要なことだと感じている。長野県の教育委員会でも、教育振興基本計画で個人と社会のウェルビーイングを目指すという形で掲げられているが、ウェルビーイング、身体的にも精神的にも社会的にも良い状態であるということが、子どもたちの健全な成長や、その主体的な学びに繋がっていくものと思われる。まず一番は、暮らしの中での安心・安全というものを支援いただき、確保いただいた中で子どもたちの成長の場、学びの場を作ることが大変大事なことだと思っている。</p> <p>それともう1点、この最初に掲げている子どもの声を聴くというところ。私はゆいわーくの委員もしているのだが、なかなか市民からの声が行政にあがってこないという、同じような課題がある。子どもの意見や、子どもが何かをやりたいと言ったときに、どこに話を持っていくか。一番は日ごろいる学校だと思うが、学校をゲートウェイとしてしまった場合、なかなかこの意見が上がりづらいということが経験上ある。子どもが主体的に何か動こうと思ったとき、こんなことを聴いてもらいたいと言ったときに、今までの学校ではない枠組みの中で意見をいかに吸い上げていくかが重要。</p> <p>今年からコミュニティ・スクールの話も始まるが、もう少し他のところ、例えば公民館やコミュニティセンターなど、そういうところへ子どもたちが行きやすい環境、話を持っていきやすい環境があれば。そのためには普段からいろいろなところで接触をしてないと、子どもたちも言いづらいかと思う。この素晴らしいどんぐりプラン実現に向けて、子どもの意見を集約したり、吸い上げたりするシステムをこれから作っていただきたい。</p>
委員	<p>本当にまだ勉強不足で、何も言えないが、この子どもの声を聴くアンケートは非常に素晴らしいと思った。ぜひこれをもとにして行けたらいいなど。教育委員会でも協力ができればいいと思っている。</p>
委員	<p>素案について、この通りでいいのではないかと思う。</p> <p>前回の会議でコミュニティ・スクールのことを少し述べさせていただいて、7ページにあるように、今年度茅野市が全小・中学校で国型のコミュニティ・スク</p>

委員	<p>ールという形で動き始めた。実際には、動き始めた初年度なので、良さや課題などはこれから出されて、各小中学校の学校運営協議会の中で検討されるという形で徐々に進んでくるものだと思っている。茅野市の特徴として、すごく良いところだと思っているのは、このような組織を活用して子どもたちと一緒に育てることによって、学校を中核とした地域づくり・まちづくり作りに参画していただけるような生徒、大人になってもらいたいというところ。そこまで研究してきているところが個人的に非常に良いことだと思っている。</p> <p>夏の段階で少しご報告した北部中の例について。五つの地区の公民館が中心になってくださった。寺子屋的なことをやるときに、ぜひ中学生に、小学生に指導してもらえないかという依頼があり、生徒会を中心に子どもたちに働きかけると、人数は少なかったが、都合が合った子たちが小学生と一緒に学習ができた。ただ、夏休みの最初の方だと3年生は、高校への体験入学などの活動と重なってしまうので、どうしても限られてしまうが、少しでもそういう関わりが持てた。その拠点が公民館であったのは大変ありがたく思っている。</p> <p>2学期以降も、地域から一緒に連携できないかという様々な話をいただき、本当にたくさんの活動をさせてもらっている。今年度は小・中学校を会場にして茅野市の防災訓練をやるということで、学校を拠点にしてもらい、おかげで北部中は、中学生がとてもしっかり活動、防災についての学びをすることができたことが大きかった。</p> <p>10月以降は、今までできていなかった各地区のお祭りや、地域のイベントがだんだん復活してきて、ぜひ一緒に活動できませんかという話をたくさんいただき、生徒会や吹奏楽部、合唱部、美術部、他、行ける生徒が、毎週のようにそういう機会をいただいた。より地域の皆さんと力を合わせて、まちづくりにも参加するということができています。</p> <p>最後にアンケートについて、私もショックである。実は各中学校はちゃんと児童生徒にアンケート的なものはしている。北部中の場合は、最低でも月に1回ぐらいのペースで取っており、心の内を聴こうと努力している。ただ、そこに書かれてこない内容もあるし、そのアンケートをもとに、1人1人面接ということは、なかなか時間的にも非常にタイトなものがある。まずそれを見て、心配だと思ったところを優先的にするので、全員の声に答えている、答えることができるかというとなかなか難しいなど。ただ、努力は続けていきたいと思っているし、また子どもたちと一緒に作っていく学校教育活動でありたい、とそんなふうに思っている。</p> <p>中間見直しにおいて、子どもの声を聴くということ、そして保育士と子どもとともに体験機会ということで、環境を考えたりとか遊びを考えたりして、子ども主体の活動ができるように応援していくことは、保育園で日々やっていること。保育園でもこのどんぐりプランというのは、基本の考えになっているのだと思った。</p> <p>一日保育士体験などが、コロナ期からの再起ということで始まっていて、保護者を支える機会や、保護者が学ぶ機会になっている。またどんぐりプランを改めて見直して、保護者や地域の方にとてもお世話になっていて、地域の方から見守られて育っているところも多いと。先日も発表会があり、地域の方にも来ていただき、温かい応援をいただいた。また、いろいろな植物を中学校からいただいたなど、本当に地域に根ざした保育園作りというところで、どんぐりプランは基本になっている。このプランを委員会さんで検討していただき、細かく立てていただいて、わかりやすくよかったですと思う。</p>
----	---

<p>会長</p>	<p>どんぐりネットワーク茅野で、どんぐりサロンという、もう少し多くの市民が入ってもらい会や幹事会等で何回か話題にする中で、見直し専門委員会としては、ちょっと意図が漏れていたと思うものがいくつか指摘された。</p> <p>まずは、声を聴くというところ。声を聴くには、2種類あり、それが明確になってない感じがある。私の意図として、声を聴くというのは、聴いてあげて要望に答えるという考え方もあるが、子どもたちでも議論することが必要だろうと。だから先ほどからのいろいろな視点の中で、一つ大事なことであったが、何でも望みを叶えるわけではない、そういうニュアンスの話もあった。そういう意味で、子どももちゃんと言えなければいけない、という。</p> <p>一方で、もう一つの声というのは、言えない人、弱者の声を拾うという意味での声を聴く。元気のいい声を聴くことと、言えない人の声を聴く、の2種類があり、それが入っていない。</p> <p>また、聴くときにもやはり一方向で聴くのではなく、議論する。子どものアンケートも大事だが、これは出発点で、どうしてこうなったかを議論しなければならない。言っていることを聴くだけというのは違うかなと。</p> <p>ただ、弱い声を無視してはいけないということ、きちんと社会人、社会を構成する人としてやろうとするということ。それが社会人としての教育もましようという、重点項目の子どもの社会性を育むに繋がると思った。</p> <p>行政アドバイザーからの意見について。これは応援計画であって支援ではない、とまでは言い切らなかったかもしれないが、この重点項目の見直し12項目の中で、これは重点項目だから別にどんぐりプラン全体のウエイトが変わったわけではないのだが、福祉という側面が出てないということをお願いした。つまり、どんぐりプランとは、教育と福祉をくっつけたプランであるということの中で、教育の側面が少し強く出ているのかなという指摘をもらった。確かに重点項目はそちらになっているところはある。強い声、弱い声というのも社会性、教育的な側面と弱者の声という福祉の側面の二つあるかなと。</p> <p>そもそも茅野市がこども部という形で部を作ったのは、学校教育と福祉を一緒にの部で扱うことにしたのが始まり。だから一緒に子どものことを教育面と福祉面から両方みよう、ということを決めたのがどんぐりプランが含んでいることを忘れてはいけない。今回福祉が少し弱かった。この辺は第4次の方で拾っていくことかな。</p> <p>コミュニティ・スクールについて。知らない間にコミュニティ・スクールの形が国型へ変わった。素案の7ページに、コミュニティ・スクールの充実がある。コミュニティ・スクールは明らかに市民との協働なのに、このコミュニティ・スクールのプランに市民が関わっていない。働くのはほとんどが市民なのに、どういう形にするかも一切市民を入れた議論がなかったのはどういうことか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>コミュニティ・スクール自体は、確かに茅野市型から文科省型へ移行している。これまでの経過としては、2月に南信教育事務所の生涯学習課長にお越しいただき、文科省型、またこれまで茅野市で進めてきていたコミュニティ・スクールについての講演をいただいた。その時に、都合が合った方には、運営委員の皆さんにも出席いただき、あとは各学校の中で、既存の運営委員の方々と文科省型に移行することについて、議論をいただいた上で決めてきた。実際には、教育委員会が主導するわけではなく、コミュニティ・スクールは、学校と地域の方々との関わりの中で生まれてくるので、今後、学校長を軸にしながら地域の方々とどんな姿にしていくのかを、各学校のスタイルで決めていってもらいたい。これは茅野市型においても同じだが、そのような流れとなっている。</p>

<p>会長</p>	<p>今日この議論をするのは難しいが、今の回答はよろしくないと思うので、今後協働するならばきちんと議論をしていきましょう。少なくともどんぐりプランの中でうたっていることなのに、ここのメンバーで、どういうふうに国型になるのかを一切報告も上がっていないし議論もない中でスタートしている。</p> <p>学校ごとと言いながら、茅野市の小・中学校が一斉で変わっているということは行政主導だと。各学校で議論もしていないのではないかな。かなり急いでやったのかな。あり方を学校ごとで話し合うにすれば、少し行政主導過ぎた。結局協働するのは市民なのだから、どういう意図があるのかははっきり議論しないとけない。</p> <p>しっかりと協働するならば、作り上げていくプロセスを重視していくべき。結局決めてしまったことを、あとからお願いしますというふうにならないように。市民が頑張らなければいけない部分が多いので、そこはしっかりと考えていくのが重要である。交付金のためなのなら、いくらもらえるので、市民の皆さん頑張って国方に合わせましょうと、オープンに言えば、積極的にアイデアが出るだろう。それをうやむやにしながら、付き合わされている感じが強いのはよくない。次はそういうことがないようにしていただきたい。</p> <p>これはパートナーシップの推進というところで、やはり協働や参画ということ、行政も市民もしっかりと勉強しなければならない。双方が勉強不足かなという認識でいる。</p> <p>公民館について。公民館と公民館活動が曖昧になっているのではないかな。茅野市は多重構造になっているので、地区コミュニティセンターも一種の公民館であり、行政区という単位の公民館もある。戦後、社会性を高めていく、自分の生きる力を高めていくような市民の勉強の場所として生まれたのが公民館活動のスタート。その中で茅野市はだんだんそれを市民協働の形として整理しようという形があって、行政区にあった公民館が少し教育的な側面がなくなりレクリエーション的などころが残っているような。公民館の活用といっても、いろいろな公民館があるということも考えていかなければと感じた。</p> <p>今日の話題の大きな点は、声を聴くということについて。また、協働について。これはどんぐりプランを作る過程でパートナーシップ・協働をもう少し考えなければいけない。そうしなければ、市民の知らないところで形が決まっています、それに対して協働しなければならなくなるという、ねじれが起きるのではないかな。こんな話題が出たので、第4次プランのときには、プロセスからきちんとしていくからこそ、市民も一緒になって頑張れるのではないかなというところも反映させたい。</p>
<p>委員</p>	<p>重点項目について、は事務局にしっかりと、わかりやすくまとめていただき感謝している。</p> <p>アンケートについては、大変辛辣な意見もあるが、私が感心したのは、大人に伝えたいことの項目の中で、我々大人を気遣っているような意見があること。こんな意見も出るということは、たくましく優しく夢のある子どもが育っているのだと感じた。</p>
<p>会長</p>	<p>アンケートについて、どんぐりネットワーク茅野で議論したときに、子どもたちの回答した項目が、とても妥当である、子どもたちはいいセンスをしているという話があった。この一位の項目、尊重される社会というのは、意見を聴くことと実は同じではないか。尊重してもらえれば、意見を聴いてくれる。尊重して</p>

	<p>もらえるならば、楽しい場所を作ってくれるなど、要するに尊重して聴いてくれれば、結局他に書いてある具体的な項目も同じで、万能な項目に票が集まっているのではないかと。1人1票しかないので悩んで、万能なものをしっかりと考えて出したのだと。</p> <p>もう一つ、どんぐりネットワーク茅野で子育て応援アンケートというものを実施した。資料編43ページになる。最終的にはアンケートの内容が膨大なので、URLを記載して、詳細はホームページで見られるという形にしてある。このアンケートを分析すると、①～⑤のことを、重点あるいは4次プランにうたっていくべきことを意見としてまとめた。これが組み入れられている部分もあるし、必ずしも組み入れられてない部分もあるが、できることだけを書くのではなくて、要望があるという事実も資料として残していくべきということで、資料編に入れていただいた。</p> <p>アンケートの中身を紹介する会も開いており、今後もこのアンケートを継続的に行いながら推移を見ていく。これも、意見は個人の主張で終わっているので、どうしてそうなったかということ、市民が集まって議論していけるような、そんな展開になるといい。</p> <p>聴くというのは一方的で、社会性は、なぜそうなったかを議論することで、より深まっていく。そんな材料になればいいと。子どもの声を聴くことを出発点に、社会性を育むということで、どうしてこういう意見が出るのかという議論材料になっていく。そんな展開もあればいいと思っている。</p> <p>事務局から、この議論を聞きながらどこか修正した方がいいようなところはあるか。</p>
こども課長	<p>本日、素案や、アンケートも含めて皆さんから意見をいただいたところで、子どもの意見を聴くということは、本当に大切にしていきたい。</p> <p>また、子どもたちがどこに意見を言っているかわからないという部分。それに対応する仕組みづくりというのも、今後に向けて必要だと感じた。また今後は、議会等への報告もしていくようになるので、最終的にはこちらのこども・家庭応援会議で、様々な機関においての微修正を含め、確定後の案をお示しできればと思う。その後は上層部の方に議案を上げ、確定という流れになると思っている。</p>
会長	<p>子どもの声を聴くについては、このままでは、どうアクションを起こせばいいのかが入ってないような気もする。声を聴くのも、いろいろな場面でそういった場所を設けたり、子どもたちが議論したりする場所を作った方がいい、ということへ意識がいくといい。そのようなところまで気付くような文章になっていると理想的。</p> <p>あとは、資料の重点項目一覧の概要と、本編の内容とが一致していないところは整合性をとった方がいい。</p>
委員	<p>どんぐりプランとは関係ないのだが、今、学校でディベートはかなり積極的にやっているか。</p> <p>質問の背景として、私の娘が子どもの頃に学校でディベートをして、自分の意見と違う立場で、意見を言わなければいけないという経験には、ものすごく気づきがあった。今まで一方的に思っていたことに対して、こういう意見もあるのかと。この子ども同士での議論というのが、非常に役に立つと思う。一方的ではなく、いろいろな立場で考えながら、一番良いところを見つけていくという</p>

委員	<p>姿勢が身につくと思うのだが、そういうのは最近の学校教育の中にまだ組み込まれているのか。</p> <p>扱う教科の授業や内容によっては、やってきたときもあり、私もやった経験がある。コロナになって、その後どういうふうに変わってきたかまでは、何とも言えないが。今私が知る限り、北部中ではやっている授業はないのでは。ただ、大変よくわかる。大事な点だと思う。</p>
委員	<p>高校にも徐々に入ってきている。教科の学習というより、生徒会や、ある課題を設定したところでのディベートのような形。ディベートまできちんといくかどうかは難しいところではあるが、対話や、やり取りをする中で結論を出していくというような活動は、いろいろな場面で取り入れている。</p>
会長	<p>多数決で物事が決まらないということ。議論する中で考えが変わることも。相手の立場になったときにどう思うか。それも声を聴く練習。社会性の練習としての声を聴く機会を作ろうという意見。</p> <p>最近の、声を聴くというのは非常に親切でありありがたいが、1人1人の話を聴いて、そこで終わってしまうようなところが、目立つ感じがする。市長と市民の対話や、行政で市民の声を聴くというが、市民の声を陳情のように全部聴いて決定することはできないので、市民の間でも対話することが重要。相手の立場になって、どうしてできないのかということを手相に考えてもらえれば、変わったり、自分で何とかしようとなったりするかもしれないと感じた。</p> <p>これで会議事項、他に議論すべき問題がなければ、事務局に戻します。 —なし</p>
こども係長	<p>事務局から、先ほど案の今後の取り扱いの関係で、一点誤った情報を発言してしまったので訂正させていただきたい。この審議会においては、行政計画であるどんぐりプランに対して、後期の取組方針の案を策定して、市長へ提出していくというような流れになる。申し訳ありませんでした。</p>
事務局	<p>5 その他 事務局から今後のスケジュールと今年度の報酬について説明。 ・第4回こども・家庭応援会議は、2月初旬ごろを予定。 ・今年度のこども・家庭応援会議委員報酬は、第4回開催後今年度分をまとめて振込予定。</p>
こども課長	<p>その他、委員から何かあるか。 —なし</p>
副会長	<p>6 閉会</p>